

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【脳神経内科】

指標名

入院時塞栓原不明脳塞栓症に対する経食道心エコーの施行率

目標：ゴール

脳梗塞で入院した患者のうち、入院時に塞栓源不明であった脳塞栓症患者に対して、入院中のリスク精査として経食道心エコーを70%以上施行すること。

目標：ゴール達成による効果

塞栓原不明脳塞栓症の患者において、より正確に原因疾患・塞栓源をつきとめることにより、最適の再発予防薬を選択でき、より高い再発予防効果をもたらす。

目標：ゴールに対する成果の状況

目標：70%以上

2022年度 51.6%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：31例、経食道心エコー施行例：16例）

2023年度 63.3%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：49例、経食道心エコー施行例：31例）

2024年度 80.1%（入院時塞栓原不明脳塞栓症：68例、経食道心エコー施行例：55例）

目標：ゴール達成度

- ☐ S : 大幅な目標を上回った
- ☐ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☒ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

2023年度は63.3%と、経食道心エコーの施行率は増加はしたがまだ目標値に達しなかった。

理由として、2022年以前にはCOVID-19感染予防の観点から、エアロゾル感染の危険がある経食道心エコーの施行が縮小傾向にあったことがあげられる。その後、患者の感染確認、防護を含む適切な感染予防策をとりながら、施行対象を適切に選択して検査を施行することで、塞栓原不明脳塞栓症への施行率の目標70%以上を達成することができた。すべての塞栓原不明脳塞栓症での施行が理想的であり、今後はさらに高い施行率を目指していく。